

飼育ねこの SFTS について、日本獣医師会より以下のとおり情報提供がありました。

1. 動物の SFTS の確定診断方法

急性期には RT-PCR による遺伝子診断を行います。ネコ、イヌの発症例では、1 病日から 10 病日くらいまで血清中にウイルスが検出されました（未だ、それぞれ 1 症例ですので、症例数が増えれば、この期間は変わると思います）。7 から 11 病日で抗体が上昇し、2 週ほどで臨床的に回復が認められ、3~4 週で退院しました。詳細は、以下の学会・大会で山口大学の前田先生らのグループが発表する予定です。

【第 68 回四国地区獣医師大会】

日時：平成 29 年 9 月 3 日（日）14：00 ～ 16：00

会場：高松シンボルトワー6 階 かがわ国際会議場 高松市サンポート 2-1

【平成 29 年度獣医学術四国地区学会】

日時：平成 29 年 9 月 3 日（日）9：00 ～ 17：30

会場：高松シンボルトワー6 階 かがわ国際会議場 高松市サンポート 2-1

その後、9 月の日本獣医学会、10 月の日本ウイルス学会等でも発表予定しています。

2. 動物の SFTS の検査機関

現在、動物の SFTS の実験室診断に関しては、検査を実施する機関がありません。

（中略）

そこで、国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）の科学研究費で私どもが行っている動物由来感染症（人獣共通感染症）の研究班で、国立感染症研究所の私の部と山口大学の前田健教授の研究室で、当面对応することに致します。

（中略）

なお、研究費により研究ベースでの検査対応ですので無料です。キャパシティ等の問題もあることから、疑い動物の検査に関しては、添付ファイル（獣医師への SFTS 発症動物の診断と注意）の条件（1）SFTS 検査を行う必要がある動物：の項参照）を満たしている場合には対応する予定です（流行地以外では動物の SFTS 感染もリスクは低いので、他の感染症等を疑って検査を進めていただき、その上で、SFTS 疑いであれば検査対応します）。可能な除外診断として、パルボウイルス、FeLV（白血病）、FIV 等想定されますが、未だ具体的にどれと決めているわけではありません。また、検査成績に関しては学会・学術誌での発表をする場合があることをご承認頂けることが条件です。

検査費用はかかりませんが、輸送費は着払い対応できませんので依頼者持ちとさせていただきます。

現時点（今週末位まで）では、山口大学共同獣医学部の前田健教授（連絡先は以下）が対応可能ですので、メールでお問い合わせ下さい。

前田先生の連絡先は以下の通りです。

なお、動物病院等の獣医師の先生から直接連絡していただいても結構ですのでよろしくお願い致します。

近いうち（8月以降）に、私の部でも検査を受け入れる予定です。

山口大学共同獣医学部獣医微生物学教室 教授 前田 健

〒753-8515 山口県山口市吉田 1677-1

E-mail: kmaeda@yamaguchi-u.ac.jp

3. ネコの症例を含む成績の学会等の発表とシンポ等

前田 健教授が発表される予定に関しては以下の通りです。

① 8月5日

獣医アトピー・アレルギー・免疫学会

「獣医療関係者がしるべき重症熱性血小板減少症候群ウイルス：猫での発症」

②8月27日

兵庫県獣医師会

「重症熱性血小板減少症候群（SFTS）」

③9月29日～30日

山口大学市民公開講座

「SFTSV 感染を防ぐために（仮題）」

獣医療関係者や市民向け。2日目はマダニ対策の実習、忌避薬メーカーや動物薬メーカーにも声をかけ、対策を中心に行う予定。AMED 森川班協賛（森川は初日講演予定）

④11月19日

動物臨床医学会

市民公開シンポジウム「里山崩壊による野生動物の行動範囲の拡大と動物由来感染症の発生についてー特にマダニと野生動物ー」

⑤9月

日本獣医学会（鹿児島）

⑥10月

日本ウイルス学会（大阪）

開業獣医師の先生方への SFTS 発症動物の診断・治療上の注意と依頼

飼育猫(室内・野外両飼育)にマダニ媒介性の重症熱性血小板減少症候群ウイルス(Severe Fever with Thrombocytopenia Syndrome Virus)感染による重症例(発熱、白血球減少、血小板減少)が観察されました。血液中および糞便中に感染性ウイルスが検出されております。これら分泌物を介したヒトへの感染も否定できません。発生状況を調べる必要があります。以下の項目にすべて該当する症例に遭遇した場合、ご連絡(血清、口腔・肛門拭い液の検査)いただくと幸いです。なお、診断・材料の採集の際には、感染予防対策としてPPE(手袋・防護衣等)を着用し、汚物等を処理する際には次亜塩素酸ナトリウム含有消毒剤による処理やオートクレーブなどの加熱滅菌処理を行って下さい(厚生労働省 健感発0724 第1号参照)。

連絡先: 前田健(山口大学共同獣医学部微生物学教授、メール: kmaeda@yamaguchi-u.ac.jp)
または(森川 茂: 国立感染症研究所獣医科学部長、メール: morikawa@nih.go.jp)

1) SFTS 検査を行う必要がある動物:

発熱(39℃以上)

白血球減少症(5000/ μl 以下)

血小板減少症(10×10^4 / μl 以下)

入院を要するほど重症である(消化器症状、自力採餌困難等)

類似症状を呈する可能性のある既存のウイルス(パルボウイルスなど)の感染が否定されている

2) 日常的な対策:

猫の飼育者に対するダニの忌避剤投与の指導の徹底

猫の重症例に関してはPPE(手袋・防護衣等)の着用

汚物、排泄物の処理は次亜塩素酸ナトリウム含有消毒薬での消毒またはオートクレーブ

3) ネコの SFTS の初症例の症状、検査所見等:

2歳、雑種猫、不妊手術済みメス

体温: 39.5℃(第1病日)

自力採餌不能(第1-11病日)

白血球: 4200/ μl (第1病日)

血小板: 0×10^4 / μl (第1病日)、 0.4×10^4 / μl (第3病日)

肝酵素上昇等